

『まちと暮らし研究』28号 消費者運動の歩みと消費生活をめぐる運動のこれから

『まちと暮らし研究』第28号を発行しました。今号は東京を中心に消費者運動の現状や歩み、消費者行政の展開を考える特集としました。市場経済が発達し、グローバル化や情報技術の発展などによって消費生活が大きく変わりつつある今、消費者運動、消費者行政が歩んできた道や現在取り組んでいること、そして今後、協力して取り組むべきことなどを改めて見つめなおし、議論することが求められているのではないのでしょうか。

消費者の運動として始まった生協にとって、消費者運動、消費者行政は切っても切れない関係にあります。私たちが安心した消費生活を送るためにも、消費者運動、消費者行政が連携・協力しながら、それぞれの役割を果たしていくことが望まれます。今号がその一助となれば幸いです。



<主な内容>

- ・ 消費者運動と消費者法
- ・ 東京の消費者運動の現在—東京消費者団体連絡センターの活動から
- ・ 東京消費者団体連絡センター設立前後を振り返る
- ・ 消費者運動を問う—歴史のなかから考える
- ・ 消費者庁・消費者委員会設置 10 年目の消費者行政の実情と課題
- ・ 消費者団体訴訟制度とその活用
- ・ 転換期にある消費者運動について
- ・ 若者のライフスタイル運動との連携の可能性—欧州の消費者運動からの示唆
- ・ 戦前の消費者運動について
- ・ 消費生活の安全・安心の確保に向けて—東京都の消費生活行政の取組
- ・ 調布市における消費者行政の今—消費生活の安定と向上を目指して
- ・ 消費者被害を防ぐために—大学生協らしい取り組み

(著者：敬称略)

青山 侑
 小浦 道子
 矢野 洋子
 原山 浩介
 拝師 徳彦
 磯辺 浩一
 野々山 理恵子
 富永 京子
 尾崎 智子
 山本 理
 飯塚 左千
 眞田 隆裕

- 頒価 : 500円(送料別)
- 発行日 : 2018年12月20日
- 判型/頁数 : A5判/106頁
- 発行 : 一般財団法人 地域生活研究所

問い合わせ先：一般財団法人 地域生活研究所 (担当：三浦)
 TEL：03-6304-8665
 FAX：03-3383-7840

第7講

「まちづくり連続講座」開催報告
 これからの生協とまちづくりを考える
 ～ふりかえりを含めて～

日時：2018年11月14日（水）13：30～15：30
 会場：中野サンプラザ 8階 研修室4
 主催：東京都生協連・（一財）地域生活研究所
 参加人数：27名
 パルシステム東京 2名/東都生協1名/ふれあい医療生協 2名/
 ほくと医療生協3名/東京保健生協2名/八王子保健生協1名/東京消
 費者団体連絡センター1名/東京都生協連14名/地域生活研究所/1名

これから私たち生協は地域社会の中でどういう役割を担い、行政や他団体、そして協同組合どうしの連携をつくっていくのか、なぜ私たち生協が地域（まち）づくりに参画するのかをこれまでの「まちづくり連続講座」の振り返りや、ワークショップを通して考えあいました。

連続講座の振り返り

「わたしたちが学んできたこと、考えたこと」

三浦 一浩（地域生活研究所 研究員）

まちづくり連続講座は、東京都生協連から（一財）地域生活研究所への委託事業として、2017年10月からスタートしました。

講座は毎回ゲストスピーカーを招いた学習+グループディスカッションで構成して1回およそ3時間。これまで開催してきた第1講から6講までを振り返り、地域社会で起こっていること、課題となっていることを率直に学んできたことや、なぜ開催しているのかを改めて確認しあいました。

また、事前に行った参加者アンケートで、特に印象に残った講座や今までの講座の内容で自分の日ごろの活動や仕事、生活につながったこと、自分が考えるまちづくりについてのまとめ報告もしました。



講座	開催日	講座名	講師
1 講	2017/10/25	『地域包括ケアシステムと住民主体のまちづくり』	服部真治さん
2 講	2017/11/24	『地域包括支援センターの今とこれから』	齋藤健一さん・梅原悦子さん
3 講	2018/2 / 2	『地域の身近な相談相手・民生・児童委員』	木下 究さん・辻登美子さん
4 講	2018/4/18	『住民主体のまちづくり』	安藤 徹さん/ 進藤 祐貴子さん・ 島田 慎太郎さん
5 講	2018/6/15	『認知症とともに暮らすまちづくり その1』	北村世都さん・牧野史子さん
6 講	2018/7/ 6	『認知症とともに暮らすまちづくり その2』	大野教子さん・五十嵐歩さん

【まちづくり連続講座の開催目的】

生協が地域社会の皆さんとさらに連携を強めるために

1. 地域社会の課題を率直に学び、知る
 - 地域の中で実際にどういう課題が起こっているのか？
認知症、こどもの貧困、孤独死、障がい者支援など
 - 地域の課題をどう解決しようとしているか？
地域包括ケアシステム、生活困窮者自立支援など
 - 私たち生協は、〇〇の課題で誰と繋がればいいのか？
地域包括支援センター、社会福祉協議会、町内会、民生委員など

⇒ 生協だけで解決できる地域の課題は一つもない

2. 生協のもつ“資源”を発信する
3. 地域と生協をつなげる人づくりがカギ

【アンケートの回答より】

- ・生協が主ではなく、支える一部となることのできるという存在であること
- ・多様な要素がある「まちづくり」には、たくさんの「つながり」が必要であるということを知った。特にNPO法人の存在。金銭面での支援も必要。
- ・正直、認知症に対して多少なりとも偏見があったが、意識が変わった。
- ・まちづくりとは、地域の「困った」を解決していく地域力を高めること。そのために、地域でつながりづくりを進めること。
- ・地域包括支援センターの業務の変化については貴重な学びになった。

ワークショップ

「これからの生協とまちづくりを考える」コーディネーター：室田信一さん
(首都大学東京 人文社会学部 人間社会学科准教授)

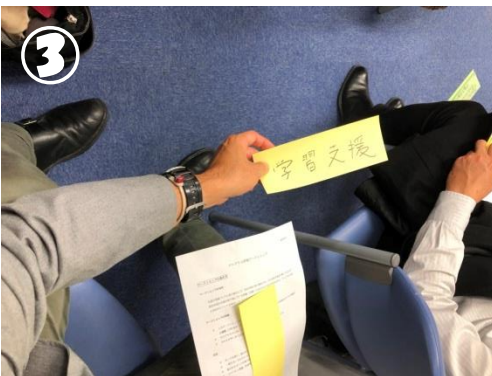
生協が地域づくりに取り組む上で、何を目的に取り組むのか、その目的を達成するために現在それぞれのまちづくりで取り組んでいる活動（手段）にはどのようなものがあるのか、そしてその手段と目的がロジックを形成しているのかを8つのグループに分かれて意見交換しながら、壁一面に貼った模造紙を使って「究極のゴール」を決め、効果的なモデルを構築するプロセスを全員で考えあいました。



1 まずは最終成果である「究極のゴール」となる目的をグループで話し合い、付箋に記入して発表しました。



2 出し合ったたくさんさんの目的を整理していくときも、参加者が意見を出し合い、合意のもとにすすめていきます。



3 次に、一つに絞った「究極のゴール」を達成するための手段を出し合います。



4 たくさん出された手段となつている取り組みは、寄せながら貼り出します。



5 全体を確認してから、どんな資源があるのかを次に考えあい、さらに貼り出します。



6 コーディネーターの室田先生の側面からの支援で、今すすめているまちづくり活動を参加者全員で確認しあうことができました。

まちづくり連続講座がおよそ1年経ったところで、中間まとめの会として第7講を開催しましたが、単なるまとめの会だけではなく、新たな気づきや、今後の活動につながる機会となりました。これからの連続講座も参加者が学びあい、ディスカッションを通じ今後東京の生協がどのようにまちづくり活動にかかわっていくか考える場として継続していきます。